

信州青木村に越してきて

埼玉の和光で社宅住まいでしたが、期限があり、どこかへ出ていかななくてはなりませんでした。

住まい探しが始まりました。

住むところは積極的に選びたいと考えました。

- ・新幹線通勤が可能な範囲で自然が豊かで空気がおいしいところ
- ・クーラーが無くても夏が過ごせ、冬は雪が根雪にならないところ
- ・自然災害の少ないところ
- ・できれば源泉かけ流しの温泉があるところ

そうした条件のもとに探し歩いた期間は約2年。

たどり着いたのが信州 青木村でした。

上田駅から約20分。上田から東京までが1時間半。

この距離が限度でしたが通勤の許可もあり、念願の古民家再生住宅での生活が始まりました。

上田からたった20分で農村の豊かな風景に出会えるのです。

真夏でも、古民家を移築した漆喰の壁で吹き抜けのある家では寝苦しい夜は2日あるかないかです。

真冬も雪かきの必要はほとんどなく、薪ストーブのおかげで零下の朝もほかほかです。朝、寒くて起きるのが辛い日は一日もありません。

自然災害もほとんどなく、台風等の影響もとても少い地域です。

田沢、沓掛という源泉かけ流しの温泉が二つもあります。

そして何よりも気に入ったのが、市町村合併をせず自立の道を突き進むという村の姿勢です。

こういったことは、青木村に約一年にわたり四季折々訪れてわかったことです。村祭りの様子、学校や図書館施設の充実、イベントなどを見て回るたびにこの村の規模がとてもまとまりのあるものだと思います。

同じお金を出すなら、都会よりも土地が安い分、家にお金がかげられるという利点もあるかもしれません。

昨今の自然災害を考えると、日本のどこに住むかは選べるなら選ぶという選択肢もあると思います。

その基準は家庭によって違うと思いますが、私達の選択は間違っていなかったと、9年目になる今もしみじみ思います。

仕事がないから移住できないという現実もありますが、思い切って新幹線通勤も視野に入れば可能性は広がると思います。

私達は実家が東京なので、仕事で帰れない日は実家に泊まれるという利点もあります。またお正月やお盆なども帰省が逆になるので全く渋滞知らずです。

生活そのものはどこで暮らしても基本的には同じだと思います。

近所づきあい、ルールを守る、地域の役割を担う、などなど。

ただ、ところ変わればでびっくりすることもしばしばありました。

たとえば、神社の清掃を5時に行います。という回覧がくるのですが、てっきり夕方の5時かと思えば、朝の5時でした。

そして、5時5分前に行ったら、ほぼ作業が終わろうとしていました。

また、朝5時前に電話が鳴り、びっくりして出ると「野菜を玄関の前に置いてきたから。」というご近所の方からの電話でした。

はじめの頃はそんなことに不慣れでしたが、月日が経つうちに、できる限り合わせ、またどうしても無理なところはそのように伝え、今ではご近所も8時過ぎないと電話をかけてこなくなりました。

また、移住してきた方の中で地域の方々と隔絶してしまう例として、ルールを変えようとする、干渉し過ぎだと訴えるというのが大半なようです。

まず、ルールのほうですが、確かに変えたほうがいいこともあります。それでも5年くらいはだまって従うのが筋かもしれません。その中でこういう方法もありますよね～、などと案を打診しながら従っていく。すると、しばらくすると、そろそろこんな風にしたほうがいいんじゃないか。などと地域の人たちが話しはじめる。なんてこともしばしば。

干渉し過ぎは、確かによく見られています。何時に見慣れない車がおたくに止まっていた、とか昨日は留守だったね～、とか。でも、そんなのはものめずらしい初めの頃で、何年も経てば、そんなにはなくなるものです。

それに、そのおかげで我が家は助かったことがあります。小学2年生だった息子が学校から帰ってきた時、たまたま家に誰もいなくて、ベランダでうろうろしていたのを近所の方が見つけて、その家でお留守番させてもらったことがあるのです。よく見られているのは防犯にもなると考えればありがたいことです。それに見られていると言ったって家の中まで見られているわけではないので、そんなに気にしないことです。

都会の人が田舎暮らしで大変なのは、なんといっても行事の多いことだと思います。村の行事、地区の行事、地区のそのまた小さな地区の行事、学校の行事。全部こなしていたら、ほぼ毎週のように何かがあるような状態です。でも、だからこそ地域のつながりがあり、人がわかり、まとまりもある。都会が最近になってまた祭りの復活だ、親父会を発足する、自治会を見直すなどの動きもありますが、人間社会はそういった行事や集まりを通してなりたっているのですから、できる限り参加すれば自然と仲間になっていく気がします。

それから、田舎暮らしを始める時期ですが、定年後という方々が大勢いらっしゃいますが、できれば子どもが小さいうちが一番いいと思います。子どもを通じて地域やお母さんたちと交流が自然とできたり、子どもも野山をかけまわり、自然を相手に外遊びができますから。

どこで暮らしても最終的には人のつながりがキーワードのような気がします。

最後に中学3年生になった息子が作った青木村のポスターより

「電車がない。百貨店もない。ビルもない。

でも、自然はきれい！」



信州 青木村、いいところですよ。

一度遊びに来てみませんか？